

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見(二)

寺 田 貞 次

巴里大學では以上地學研究室の他に歴史部の地理と相對して設置された Faculté des Sciences に屬する地理部が猶殘つて居ます。大學本館東側、地質學研究室と並んで其の北に在ります Laboratoire de Géographie Physique と稱します。研究室は五室を備へ入口の直ぐ右側の礦物學の教授 M. Louis Genêt 氏の室に次で、一廊下の右側に相並んで居ます。其最初の室は圖書室で、可なりの廣さを有し、周壁は全部書棚、分類して圖書を充満してあり、小冊子は獨逸邊の研究室と同形式で紙函を準備し蒐集して居ます。古刊の地理書もたいぶ蒐集されて居ました。室内には閱覽用卓子を置き、卓子の後部は抽出を有する地圖函になつて居ます。書棚上部の周壁には世界に於ける地形上の標本寫眞を一面に張りつけて居ます。次の室は小さい室で演習室、學生用机數脚と黑板、地圖掛を裝置し、兩側には標本箱を並べ地形、地格に關する標本を秩序的に蒐集陳列して居ます。何れも大形の標本で立派なもの許でありました。Relief Map やアルプスに關する寫眞類も多數蒐集壁間に飾られて居ます。自分の訪問致した時は Jacques Bourcart 教授の演習中で十名許の男女學生を見受けましたが、案内の助手は教授中なも顧みず、説明を

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見

してくれる處は異様の感にうたれました。次の室も同大の室で今の T. Bourcart 教授の室であります。机の他、周壁には標本棚を設け採集の岩石類を、又幻燈用フィルムも此處に藏られて居ました。次の室も同大の室で、當研究室の主任、M. Léon Etnaus 教授の室であります。多數の抽出付の箱を備へ、小冊子類を蒐集されて居り、机の前の壁には Contre Amiral Mouchez の肖像寫眞が一つかけられてありました。此等諸室の奥は廊下の突當りの室で、廣大、標本室兼實驗室となして居ます。室内には多數の標本箱を、周圍窓際には實驗用机並に標本棚を準備し。後面には標本圖畫、寫眞類をかがけて居り、Lyon 大學の地學研究室を彷彿たらしめました。室内の標本は重に Relief Map で、巴里及び其の四圍の地點を示す Relief Map を初め、Tunnel de Simplon, Matterhorn (Mont Cervin 15,000), Berner Oberland, Vesuvio, Lago di Albano (Vulcano Laziale, Rome), Isola di Ischia, Ilha de Fogo, Santorino (Mer Egée), Alpen (Sintis), Glocker-Kammes (獨), Jura (Moutier) 並に佛國の火山地模型等、Jura 山脈地方の模型では所謂 Cluse(クレーズ)を示す處など珍らしく眺め得ました。(Le Jura, par Emme

Margerie, 1922. Paris, imprimerie nationale) 周壁の標本箱には Sahara, Rumania 邊の採集品多く、土壤の研究も盛に行はれ、巴里附近の土壤標本が蒐集されてありました。以上各室の他、廊下をも之を利用して標本なり、實驗用具などが置かれてあり、玄關迄も書棚を備へて、各國地學雜誌を納め圖書室の側の廊下には一側に地圖函(板蓋付)と掛圖類を保存し、一側には硝子戸棚、地構標本を集め、又地形模型作製順序標本、Meteorology に關する器械類をも備へ、地質に關する地圖類は之を巻けるまゝ多數蒐集してあるのを見受ました。演習室側の廊下は之を利用して化學的實驗に備へ、助手一名勤務して居ました。主任教授室前の廊下にも標本類をおき、殊に南部露西亞地方の所謂 Black soil の大標本は注意を引き露語で Tchernozione と云ひ、alt forest soil の意味だなど、説明してくれて居ました。要するに Physical Geography の研究室は早く設置されただけに、完備して居り、植民地地方の研究が熱心に行はれ、サハラ地方の如き砂漠なうかいふ標本の他、石器時代の遺物、化石類迄も蒐集されて居り、自分共には珍らしく一覽し得ました。主任の L. Eutaus 教授を初め、J. Bourcart 氏並に助手共に極懇切で、一日催しの Excursion にも参加を許され、親しく見學の榮を得ました。巴里の北郊、Ver-Emmenouville, Crépy-en-Valois, Verberie, Mont Pagnotte, Senlis, Chantilly et Coye le Dimanche 方面でありましたが、グックの遊覽自働車の様な三十人乗の自働車で、L. Eutaus 教授の案内で願せまほし、天候惡く、

距離も相當遠くに係はらず、よく其の目的を遂行する事が出来ました。T. Bourcart 教授の如き夫妻共に参加せられ、晝食の如き、レストランを利用し、ワインで談笑する等却々の盛況を呈しました。獨逸の Excursion、夫は常にリュックサックを背負ひ、パンをかちりつゝ、早曉より、日没に至る迄、駈けずりまはるのに慣れて居た自分には、流石都人の Excursion と兩國風の差異を感じざるを得ませんでした。然し獨逸のテーク／＼主義よりも、短時間に要領よく遠距離の視察を遂行するには、聊か贅澤の恐れあつても、此の方が或は能率があがつて、結局得策であるかも知れませぬ。かく巴里の大學では其沿革上、獨立した地理學研究室以外に Physical 方面の研究室迄も備はつて居り、稍重複の感がありますが、今では此方面は單に Science 科の一部として眞に Physical 方面の研究に止り、地理學とも聊か縁遠くなつて行くの感があります。

此巴里大學の地學部以外に佛蘭西の地理學界上見落すことの出来ない地理の中心が今一つあります。夫は Collège de France の地理部であります。巴里大學本館の隣に位して居る建物で、規模は稍小さいけれども、之も早くから開かれた一學部で、其第二部 Sciences Philosophiques et Sociologiques の中に地理の講座が在り、殊に此處のは Géographie humaine と云ふ名目を取つて居ます。一九一二年に創設された學科で、A. Kail 教授が其の椅子を占めて居られましたが今に夫の人文地學の大家として名聲ある M. Jean Brunhes

教授が之を繼で居られます。Brunhes氏は矢張り Vidal de la Blacheの門下で、多年瑞西の Fribourg 大學に教職をとり、Blache 教授の後をついで人文の方面を研究し、其ドクトラ論文として發表された Irrigation in the Mediterranean lands は有名なもので、次で發表した La Géographie humaine (Paris 1910 年 11 月 19 日) の如きは人文地學研究の新方面を開拓したものとて、學界の賞を受け、著書は英譯にもされて居り、よく人の知る處となつて居ます、尙ほ氏の著は甚多く、Camille Vallouix 氏の共著なる La Géographie de l'histoire (Paris 1921 年) の Géographie humaine de la France の如きも名著たるを失ひませぬ、本學年(一九二五—一九二六)には Le problèmes du Pacifique と云ふ題で講じて居られました。私は一度教授の口咳に接したいと、大使館の紹介を得て巴里市の南郊 Boulogne なるセーム河畔に教授を訪ねました(Boulogne sur Seine 75, quai du Quatre Septembre) 河畔の綺麗な老樹蔭暗き處一軒の木造 Villa は教授の居室でありました。外圍の戸は閉されて居ない、窓の戸は開放されて居る。裏側の玄關にまばると、玄關も開放され、正面の壁には物古りたりとは云へ、世界全圖が張りつけてある、草花が其前に飾られてある。聊か見ゆる奥の間には本箱の蔭も眺められる、流石は地學者の邸宅ともうれしく思つた。然かし邸内は綠草深く茂つて、枯葉落つるにまかせてあり、玄關にかゝれるベルは何世紀頃の遺物にや、既に——赤錆びて、何時から來訪者なきやを疑はしむる許である。試みにと引く

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見

とベルは錆ながらに鳴る。然かし答ふる者はない、幾度試みるも敢て答ふる者が無い。少しはなれて、一軒の建物が見える、行つて尋ねて見る。荒れはてたる建物ながら此處には一人の男が居た。何か新聞に關係ある建物らしい。教授は御不在との事である、案内を得て邸宅裏の番人の住宅、並に新聞社の主任 Louis Loret 氏にも出合つたつづけたが同様で、教授一學期の講義を終て、今は加奈陀にミツション中であることが解つた。二三ヶ月後には御歸宅のことであつたが、自分は又御訪問申す機のないのを遺憾に思つた。もの古りたる邸宅後に、今度は Collège de France を覗いて見る。

正門を入ると兩側は教室となし、左側は化學教室、右側は文學並に醫學の教室である。西門から通ずる玄關も此處に在り、玄關の周壁には青銅製の胸像が多數に並んで居る、何れも名教授の記念物でありませう。壁上の板碑には一九一二年 A. Kalm 教授の記念銘を發見した、Brunhes 教授の前任として、人文地學を擔當した教授である。地理の研究室をたづねて見たが、夫らしいものを發見することが出来なかつた然かし、Brunhes 教授の講義室は此の玄關の南側に之を發見した。第八號教室で、可なり廣大な講堂をなし、僅に數百人を收容し得ると觀察した。然かし、今迄觀た講義室の完備して居るのに比すると、古びて暗黒、正面は一段を高めて、黑板なり、地圖臺なりを備へ、幻燈機の設備も出來ては居るが何となく陰鬱、之れが、音に聞く Brunhes 教授の講義室かと思ふと意外の感にうたれざるを得なかつた。黑板の傍にはも

の古りたる太平洋圖が一枚かけた儘に淋しく残つて居た。本學期の講題が太平洋問題なるを思ひ浮べると、是又異様の感にうたれざるを得なかつた。玄關の北側、第五教室に通ずる廊下の兩側に板蓋を備ふる地圖箱が並んで居り、上には一枚の歐洲の Relief Map が塵の堆積のまゝに放任されてあるのを發見した時、佛蘭西に於ける人文地學の大家として、大期待を囑して來た自分には全く裏切られた様の感にうたれ、Brundes 教授を以て written 且辯舌家を以て名聲ある教授と評してあつたのを思ひ浮べて、其解釋に苦しまざるを得なかつた。

佛蘭西に於ける地學は上述大學の他、現今は佛國各地の大學にも地理學部の設置があり、夫々其地方地學の中心として研究に従事して居り、Lille 大學には Faculté des Lettres に地理學部があり、現今巴里大學に居られる Albert Demangeon 氏に依つて基礎が定められ、Antoine Vacher 氏を経て Maximilien Sorre 教授が居られ、Demangeon 教授の後をいつて人文地學の研究に従事せられて居り、Rennes 大學は、E. de Martonne 教授の居られた處で、今は René Musset 教授其後を継ぎ、Nancy 大學には Bert Rand Auerbach 氏 Borda 大學には Henri Baulig 氏が居り、殊に Grenoble 大學はアルプスの山地に位して、アルプスの研究は引いて地理學の發達を促し、教授には、アルプス及び其人文的研究で知らる、Le seuil de Rives; Etude de morphologie glaciaire

(Zeitschr für Gletscherkunde 1911—12); Grenoble, Etude de géographie urbaine (Paris, 1911) 等の著があり、アルプス研究の機關として Institut de Géographie Alpine を創設し Revue de Géographie Alpine と云ふ雜誌をも經營して居る Raoul Blanchard 教授が居ると聞け居ますが (E. de Martonne 著佛蘭西の地理學) 不幸視察の機を得ませなんだ。唯 Lyon 大學だけは之を視察する事が出来ましたから、地方に於ける地學研究室の一例として之を御紹介申して置かうと思ひます。Lyon と申しますと、昨年 (一九二四) の十月、京都大學文學部の植村清之助氏、東京大學文科の今井登志喜氏を思ひ出します。吾に聞くりヨンの町、夫の織物の博物館 (Musée d'industrie) が、市の博物館を觀て、河向の大學を訪れました折惡しく休みで教授に御面會申す幸を得ませなんだが、研究室だけは自由に縱覽する事が出来ました。本館玄關の右側は Faculté des Lettres で、其の二階の一部は Institut de Géographie になつて居り、考古學の研究室と相對して居ます。大小教室から成り、最初の室は廣大な室で地理の Musée (標本室) 其の奥が教授室、助手室並に演習室に別れて居ます (Musée (標本室) は、室の中央に各種の硝子眼標本箱を備へてリヨン地方の地質標本から、各種の Relief Map 等を陳列し水河時代の標本から、先住人種の遺品迄も蒐集されてあり、周壁は重に地圖類、畫圖、寫真類の陳列所をなし、地圖では古刊の地圖を初め各種の特種圖を集め、地形標本寫真では、Grand Canyon du Yellowstone; Le Geyser "Le chateau";

La Terrasse de Minerve (Sources chaudes du Mammouth), Le Geyser (Yellowstone), Formes de l'érosion dans les breches basiques; Arbres fossiles dans les breches basiques. 等が注意を引き、世界人種に關する寫眞、圖畫をも蒐集し、佛領諸島主人、例へばフィジー人、ポリネシア人等は之を石斧製陶像として、周壁の各柱上に飾つてありました。地學研究資料として此等標本の蒐集は素より必要でありませうが、此の研究室の徒らに標本室のみ充實して、圖書室並に實習室等の不備を見ては、例へ此の研究室がもと現今巴里大學教授として、佛國地學界に名聲ある E. de Martonne 教授の居られた處、或は此の標本室の如きも同教授の指導に成つたのであるかば知れませぬけれども、吾人の眼には餘り美しく映じませんでした。主任は Maurice Zimmermann 教授で、早くから商業教育に従事し經濟地理の研究家として Chronique Géographique 誌をも經營して居る方、由來リヨン市は佛蘭西に於ける商業都市であるから自然經濟地理の専門家たる教授の居られることは好適と觀察した。

佛蘭西に於ける現今地理學研究は右述の諸大學が其の中心をなして居るのでありますが、尙其他に直接又は間接地理學に關係を有する機關も、英、獨諸國と同様、國內地圖を製出する Service Géographique de l'Armée とか、地質圖を發行する Geological Survey, Hydrographic Office, Institut of Urban History, Geography and Economics 等色々のものがあり、又地理に關する圖書を出版する書肆もありまし

て、大學の研究と相俟つて佛蘭西に於ける地理學界の發達に貢獻して居ます。此等は不審詳細に觀察する機を有しませんでした。が、書肆だけは二三訪れて見ましたから、夫だけ御紹介申して御報告を終らうと思ひます、最初に訪ねましたのは Armand Colin 書肆であり、Boulevard St. Michel, 103. 丁度 Luxembourg 公園の東側の通に當て居ます。階下が販賣部になり、書店出版の新地圖類の見本を陳列し、カタログを備へて、購買の便をはかつて居ます、普通書店の様に圖書の陳列がないから、極簡單で店内清潔であります。夫の世間によく知られて居る Vidal de la Blache の地圖 Histoire et Géographie, Atlas Général (Vidal-Lablache) は此處で出版するもので、一九二四年の新刊をも見受ました、又地理學雜誌である Annales de Géographie を出版して居ます、故にラッシュ教授 (Vidal de la Blache) 之が主任となり、現今巴里大學に居られる Lucien Gallois 教授之を補佐して、一八九二年に創刊したもので、今は巴里大學地理部長 E. de Martonne 教授並に Albert Demangeon 教授指導の下に引きつゞき刊行致して居ます。尙、早くから大學のドクター論文や、Collection Armand Colin と稱して、其中に於て地理關係書を出版するものも少くありません。又、L. Gallois 教授などの指導のもとに、各種の地圖類をも版行、P. Vidal-Lablache の名儀つ出て居る Collection de Carte murales の如きは方三尺位の地圖で五十集許出て居ます。政治地理、經濟地理に關する特種圖で、教授上良標本と觀察しました。

Almand Coinに次ぎ、訪ねましたのは、Librairie Hachetteであります。Boulevard St-Germain, 79. 巴里大學より少し東方に當て居ます。階下は賣店、階上は倉庫式になり、教科用書類の販賣部になつて居ます。早くから、地理關係書の出版を以て地學界に貢獻した店で、雜誌の一種で、或は地學上の探險とか、地學に關する記事に當んで居た Le Tour du Monde なる、地理辭典なる Louis Vivien de St. Martin の Nouveau dictionnaire de Géographie Universelle (7 Vols Paris, 1879-1900) 並に Paul Joanne の Dictionnaire Géographique et administratif de la France (7 Vols, 1890-1905) 等をも出刊し、地圖として L. Vivien de St. Martin, F. Schnader 共著の Atlas universel de Géographie (80 Sheets, 1877-1912) 其他 Vidal de la Blache の著 Tableau de la Géographie de la France 及び Ernest Lavisse の著 Histoire de France 並に Elisée Reclus の著等々を擧げると、出て來ます。然かし現今は普通な案内書と地圖類の出版を主とする様になり、各種の便利な案内記類が店內を飾つて居ます。尙此二書肆の他に、地理に關する圖書は各所の書肆で出版されて居ますが、其中訪ねて見たのは、Masson 書肆であります。是も早くから地理書出版に關與した店で Albert de Lapparent 著の Leçons de Géographie Physique (1896) の如きは此の出版に係つて居ます。又巴里地學協會の機關雜誌 La Géographie 及び Marcellin Boule 編の Guides des

touriste なども出版して居ます。人文地理の新研究として知らる Brunhes 著の La Géographie Humaine の如きも此の書肆の出版する處で、特に此の書に關する廣告は店頭に眼立つて見えました。私は不幸にして佛蘭西滞在の期が短かつたので、充分な視察を致す機を有しませず、著しい御報導の出來ないのを遺憾と存じます。又何等かの御益にもたてばと思つて意見を御報申したに過ぎませぬ。(一九二六年五月稿)

摘 錄

○小林儀一郎 北樺太油田地質概報

(Preliminary report on the geology of the oil-fields in North-Russian Sakhalin. Bull. Amer. Ass. Petro. Geologists, Vol. X, No. 11, Nov. 1926, pp. 1150-1162)

記載區域は北樺太即ち露領樺太の東海岸油田で、地形上東方海岸より東方奥地に向ひ瀉、階段地、丘陵地、山嶽地の四帶より成り、各南北に連亘して居る、就中瀉帶は地質學上頗る興味あり其生成は海岸の隆起、沙嘴の發達及斷層に由來して居る、油田を構成する主な地質は中新期より鮮新期に亘る頁岩、砂岩、礫岩等の累層で岩質と化石との見地から之を上、中、下の三部に分ける事が出来、其内で石油の成因に密接の